



2013 年度 事業計画書 予 算 書



インド クリスチャン・フェローシップ病院の看護師
(撮影 大久保奈緒)

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service
(JOCS)

目 次

1. 新年度の抱負	1
2. 2013年度計画	2
3. 海外諸活動	5
3-1 海外派遣	5
(1) バングラデシュ・ワーカー 山内章子(理学療法士)	5
(2) バングラデシュ・ワーカー 岩本直美(看護師)	6
(3) パキスタン・ワーカー 青木盛(医師)	7
3-2 短期ワーカー派遣	7
3-3 研修生・奨学金支援	7
3-4 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)	13
4. 国内諸活動	14
4-1 国内活動全般	14
4-2 ワーカー育成活動全般	14
4-3 東日本大震災被災者支援	14
4-4 広報全般	15
4-5 募金	16
4-6 使用済み切手運動	16
4-7 JOCS 関西バザー	17
5. 運営会議	17
5-1 社員総会	17
5-2 理事会	17
5-3 運営協議会	17
5-4 委員会	17
5-5 海外保健医療協力者会議のフォローアップ	20
5-6 評価	20
6. 事務局	21
7. 予算書	22
収支予算書(正味財産増減ベース)	22
収支予算書内訳表(正味財産増減ベース)	24
収支予算書総括表(資金収支ベース)	26
公益目的事業会計 収支予算書(資金収支ベース)	27
収益事業等会計 収支予算書(資金収支ベース)	30
法人会計 収支予算書(資金収支ベース)	31

1. 新年度の抱負

「キリスト教」の意味が問われるとき

＜会長 小島 莊明＞

昨年暮れ、JOCS のワーカー、理事、監事、事務局の全職員、数名のゲスト、そして JOCS の将来を担ってくださるであろう若手有志の方々とともに、2泊3日の日程で「ネクステ会議」が開催されました。JOCS50年の歴史の中で、ほぼ10年ごとに開かれ、JOCSの重要な理念や方針について議論を重ねてきた「バンコク会議」に相当する重要な会議がありました。その詳細は別途報告されると思いますが、会議の中でJOCSの「C」（「キリスト教」あるいはワーカーの「クリスチャン条項」）をめぐる熱い議論が交わされました。

実際、世界の状況をみると宗教をめぐる争いが絶えないように見えますし、医学の領域に限ってみても iPS 細胞の作製によってクローン技術による「ヒト」の誕生の可能性など、現代ほど「キリスト教」の意味が問われているときはないと言えるのではないかと思います。

そのような中であって、私たちは偏狭な宗教の枠にとらわれず、クリスチャンではない方々のご支援も多くいただきながら、イスラムやヒンズーなど他の宗教を信ずる人々のところにもワーカーを送り、平和のうちに「ともに生きる」ことの大切さを学ばせていただいております。

その原点は、「わたしの隣人とはだれですか」という問いに、お答えくださったイエスの『善きサマリア人のたとえ』（ルカによる福音書 10：25－37）にあると思いますが、野村実元会長は、私たちの団体名に「キリスト教」とある真の意味について、「私たちは何の誇るところもない、いなこの世でいちばん小さいものであることをいつも忘れないためと解釈して、私の心は、はじめてやすらぎを覚えた」と記しておられます（野村実『海外医療協力の在り方』、1967）。

神の御心を尋ね求めながら、新しい年度も、このような思いで皆さまとともに歩んでまいりたいと願っております。

2. 2013 年度計画

＜総主事 大江 浩＞

● 人口 70 億人の地球を生きる～「平和の道具」として

地球社会は、人口 70 億人の時代を迎えました。世界銀行は、「2008 年時点で、1 日 1.25 ドル未満の生活をする最貧層は約 5 人に 1 人（12 億 9000 万人）、1 日 2 ドル未満で暮らす人は 24 億 7000 万人」（2012 年 2 月 29 日）と報告しています。国連ミレニアム開発目標（MDGs）は、2015 年までに「世界の貧困の半減」を目指していますが、様々な困難が立ちまわります。世界子供白書のレポートでは、年間約 880 万人の子どもが 5 歳の誕生日を迎えられず、1 分に 1 人の女性が出産時に命を落としています。貧困は、先進国、日本にもある現実です。約 15% という高い相対的貧困率、約 3 万人の自死者、「難民」化する若者たちや孤立する人々などの報道は、私たちの身近な貧困問題への警鐘です。

地球は、一つの運命共同体です。私たちは互いに繋がり、貧困と暴力を克服し、命が尊ばれる社会を目指すために、知恵と力を合わせるよう求められています。「平和」は遥か遠くではなく、日々の暮らしや人々の間においても実現していかなければなりません。貧困をめぐる諸課題は多岐に渡り、保健医療のみでは解決できないことも多々あります。その現実を深く理解しつつ、JOCS は地域と人間に根ざした「平和のための道具」として、使命を果たしていきたいと思えます。困難な時こそ神の力が増し加えられ、働かれると信じて。

● 「みんなで生きる」～人々のいのちと向き合って

JOCS は、2012 年末に、第 5 回海外保健医療力者会議（Next Step＝ネクステ会議）を開催しました。10 年に一度のこの会議の主要議題は 4 つ、①使命、②国内活動、③クリスチャニティ、④保健医療協力、でした。JOCS の使命を確認し、国内活動の在り方を語り、JOCS の基盤となるクリスチャニティを考え、JOCS のこれからの保健医療協力に関する方針について、熱い議論が繰り広げられました。私たちは、ネクステ会議で出された問題提起や提案を今後の活動に生かし、具体化していく責任があります。

JOCS の海外保健医療協力は、ワーカー派遣・奨学金支援・協働プロジェクトの 3 つを柱としています。JOCS の使命は、“最も貧しく小さく弱くされた” 人々「女性と子ども／障がい者／少数民族／HIV に影響を受けた人々／医療の過疎地にある人々」と共に生きることです。

2013 年度は、現行のバングラデシュでの保健教育プロジェクトに加え、新規協働プロジェクトの開拓に向け、調査を行います。ワーカー派遣とは異なる、多様なニーズに応える新しい形の事業展開へさらに取り組んでいきます。様々な活動の形態がありますが、JOCS の活動方針として変わらぬことは、アジア・アフリカの人々に仕えること、共に歩むこと、人々のいのちと向き合って「みんなで生きる」こと、です。

● 3.11～被災地の人々と共に歩む

私たちは、3.11 という大災害によって、自然の大いなる脅威と共に原発事故を体験しました。「安全神話」が崩壊し、私たちの生き方が問われ続けています。しかし、あの日から2年の月日が経ち、被災地は日々、忘れ去られていく状況にあります。未だ復興の兆しすら見えず、取り残される地域があるにも関わらずです。

JOCS の被災者支援は、日本キリスト者医科連盟 (JCMA) の協力を得て仙台に始まり、釜石へ、そして福島に広がり、続けています。JOCS は支援の現場にあって、共に生きることの大切さや難しさと向き合っています。JOCS は、様々な困難を抱えながら被災地で支援を続ける地元の方々に敬意を抱き、今後も活動を支えていきます。

釜石では、カウンセラーと看護チームの派遣を通して、人々に寄り添っていきます。福島での支援の中心は、児童養護施設の子どもたちを健康被害から守るための活動です。弱い立場にある子どもたちが、放射能汚染という「見えない恐怖」に晒されています。支援を通して、この問題に関わっていきます。

● 「今日」を生きる～「明日」に向かって歩む

JOCS は、2011 年 4 月より公益社団法人としてスタートし、3 年目を迎えました。公益社団法人としての責務を果たし、社会の信頼を得ると共に、会員・寄付者・ボランティアの方々と共に歩みたいと思います。

私たちは、JOCS の国内外の活動を通して様々な物語と出会います。JOCS は、人々の「声」や現実を分かち合い、共に考える、そうした啓発の場を大事に、より一層力を注いでいきます。そのために、教会やキリスト教学校・諸団体との協働は、欠かせません。JOCS は、これからも様々な団体やセクターとのネットワークを大切にしながら、活動を進めたいと思います。そしてキリストに示された使命実現のため、「今日」を生き、「明日」に向かって歩み出したいと思います。

<重点課題と取り組み>

1. 貧しくされ、虐げられ、差別され、必要な助けから遠ざけられている人々と共に生きる。

- (1) 現行の「今後 5 年間の方向性」を継承する。また新しい 5 ヵ年計画 (※) のステートメントとアクションプランを確定した後は、その方針に基づいて諸事業を推進する。

※新「今後 5 年間の方向性」の重点対象：「女性と子ども／障がい者／少数民族／HIV に影響を受けた人々／医療の過疎地にある人々」

- (2) 2014 年度定時社員総会を目標に、「基本方針」と「実施要綱」(P&P) の改定案を作成する。
- (3) 第 5 回海外保健医療協力者会議 (ネクステ会議) の覚書で提起された 4 つの主要議題を、それぞれに協議・検討し、課題に取り組む。

2. 事業の充実を図る。

- (1) 3カ国へ、5名（短期を含む）のワーカーを派遣する。
- (2) 6カ国 68名の研修・奨学生支援を行う。
- (3) Project “LITTLE” ※（協働プロジェクト）を推進する。 ※“Living together with the People”
 - ・ 4年目を迎えるバングラデシュでの学校保健教育（現地協力団体：BDP - Basic Development Partners）の展開を支援する。
 - ・ 新規協働プロジェクトのための調査を行い、事業開始に向けた準備を行う。
- (4) 新しいワーカーの発掘に努める。
- (5) 啓発活動を強化すると共に、日本の子どもたちに途上国の現状や「みんなで生きる」ことの大切さを理解する機会を提供する。
- (6) 使用済み切手運動 50周年（2014年度）の準備を開始する。

3. 組織の活性化に努める。

- (1) 会員増強・寄付拡大に努め、国内活動と広報活動の充実を図る。
- (2) 単年度収支差額の縮小、バランスのとれた事業の展開と中長期的な財政健全化に努める。
- (3) インターンの受け入れ、新たなボランティアの発掘と共に、次世代の人材育成に努める。
- (4) 日本キリスト者医科連盟（JCMA）、並びに教会、キリスト教学校・諸団体とのつながりを深める。

4. 東日本大震災の被災者支援を継続する。

- (1) 支援活動は、「地元を主体に」を基本と考え、地元の支援団体と連携しながら、それぞれの状況やニーズに合わせて行う。
- (2) 仙台では東北教区センター・エマオと被災者支援センターの支援サポートを、釜石では仮設住宅や孤立集落の被災者の心理・保健ケアや支援者のケアを、いわきでは仮設住宅での健康相談を継続する。
- (3) 福島の子童養護施設の子どもたちの健康を守るための支援を継続する。

3. 海外諸活動

[3-1] 海外派遣

(1) バングラデシュ・ワーカー 山内章子（理学療法士）

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

主たる活動地は以下の4カ所である。

1) PCC (Protibondhi Community Centre) (マイメンシン県)

- ・脳性まひ児のデイケアの質の維持向上
- ・理学療法技術者の教育（特に評価と治療の結びつきについて）
- ・口唇口蓋裂プログラムの定着化
- ・女性クラブ（障がい女性の集まり）の商品品質改善（目標はチャリティーからの脱出）

2) Kailakuri Clinic (タンガイル県)

- ・理学療法の提供の継続
- ・ヘルスワーカー（家庭訪問をして5歳未満の児の健康管理をしている人）の教育と質の維持
- ・JOCSワーカーとしての関わり方の明確化

3) Disabled Center (ディナジプール県 Dhanjuri Mission 内)

- ・新しい責任者（2013年1月29日着任。神父）に対するセンターの必要性の理解、障がい者のためのプログラムの重要性の理解を促進
- ・フィールドワーカーの自立
- ・カリタス NGO のフィールドワーカーとの連携体制の確立

4) Butahara Mission (ラッシャヒ県)

- ・責任者に障がい者のためのプログラムの重要性の理解の促進（訪問の頻度も上げる）
- ・現在責任者のオーダーで建設中の建物に、障がい者のために使うスペースを確保
- ・女性障がい者のためのプログラムをスタート
- ・月に一度のフィールドワーカーの教育指導及びエンパワメントを継続

*1期目に活動していたダッカ県の SSM Sisters 及び韓国 NGO のサポートは適宜行う。
特に SSM Sisters のプロジェクトは、石本馨短期ワーカーの要請により随時サポートを行う。

*今年度はホルタル（ゼネラルストライキ）の多発化が見込まれ、マイメンシン県外の仕事にはかなりの支障をもたらすと思われるが、情報収集に努める。

*その他、2012年度で理学療法基礎 Basic Class は終了するが、出席していたハルアガット（地名）の女性フィールドワーカーは、継続してマイメンシンで教育指導を行う。

3. 海外諸活動

(2) バングラデシュ・ワーカー 岩本直美 (看護師)

派遣先：テゼ共同体 (ラルシュ マイメンシン・コミュニティ)

1) コミュニティの将来計画とその方向性の明瞭化

- ・コミュニティの三つの家のうち、一つの家が 2015 年末でもって終了し更新の可能性は無い場合、それ以降の生活場所の確保について検討し決定する。(コミュニティの場所は現在地のままで、一つを家の土地・建物を確保するのか、コミュニティ全体が移転するのかを決める。)
- ・上記と並行し、必要な予算の確保を行う。
- ・コミュニティが他所へ移転する場合、それに伴う検討事項を整理し、必要な支援を行う。(地域から通う、知的な障がいをもつメンバーたちの受け入れ先を確保する等。)
- ・移転する場合、移転予定先の地域における啓発活動を重点的に行う。

2) 組織運営の強化

- ・理事にラルシュについてさらに理解してもらい、その職責(コミュニティの将来計画の支援、地域におけるラルシュコミュニティの啓発、そして資本及び運営資金の調達など)を具体的に履行するよう、働きかける。
- ・現在 5 名の理事に加え、新しい理事を 2 名増やし、7 名とする。
- ・社会福祉局への登録過程を進める。
- ・給与規定に関し、給与方針委員会を中心に 1 年かけて、その見直しを行う。
- ・定款の見直しを行う。
- ・政府機関や民間団体、また専門家及びボランティアグループとの協働を強化する。
- ・姉妹関係にある他国のラルシュとの関係を深め、国際ラルシュ連盟よりそれに関する公的な承認、及び必要な支援を得られるよう働きかける。

3) コミュニティ運営

- ・コミュニティの覚書(2011 年～2016 年)の達成内容に関し、その中間評価を行う。
- ・覚え書き満了(2 年任期)に伴い、コミュニティ生活の意思決定機関であるコミュニティカウンスルの評価を行い、新しいメンバーを選任する。
- ・コアメンバーカウンスルの機能に関し、その見直しを行う。
- ・多岐に渡るコミュニティリーダーの役割を支援するため、その一環として、アシスタントコーディネーターの働きに加え、ハウスコーディネーターの養成を試みる。
- ・アシスタントの、養成プログラムを強化する。
- ・障がいのあるメンバーたちの個性と、自由な選択の幅が更に広がるよう、必要な支援を行う。
- ・任期終了となる責任者たちの、評価と次期の識別を行う。また、新しく選任された責任者たちの支援を強化する。
- ・ラルシュのプログラム(子どもたちのデイケア・成人のデイケア・成人のワークショ

ップ) 支援してもらえらる専門家を国内外に求め、質の向上に努める。

(3) パキスタン・ワーカー 青木盛 (医師)

派遣先：聖ラファエル病院 (St. Raphael's Hospital)

1) St. Raphael's Hospital (聖ラファエル病院) での業務

①外来

- ・小児科を担当
- ・月曜日から土曜日の診療を継続。その他時間外の診察

②小児の入院

- ・診察、治療にあたる。
- ・小児患者の入院に対応できる設備や、児の観察の改善など図る。

③新生児室

- ・診察、治療にあたる。
- ・新しく購入した保育器の適正な使用法や管理について、スタッフと知識を共有していく (在胎週数と出生体重に合わせた温度設定と湿度調節。使用後の清掃など)。

2) 教育

- ・助産師学校学生への講義
「新生児の蘇生法」
「新生児の代表的疾患について」
「新生児ケアの留意点」など

3) 奨学金

- ・新規申請者の支援

[3-2] 短期ワーカー派遣

短期ワーカーとして、昨年度に引き続き石本馨作業療法士をバングラデシュのダッカの SMSM Sisters に短期派遣する予定である。また、タンザニアのタボラ大司教区保健事務所管轄下の保健医療機関に短期ワーカーを派遣する予定である。

[3-3] 研修生・奨学金支援

2013 年度は、インドネシア 15 名、ネパール 16 名、バングラデシュ 4 名、インド 4 名、ウガンダ 15 名、タンザニア 14 名の 6 カ国合計 68 名の支援 (詳細は 2013 年度研修生一覧 (8~12 ページ) を参照) のほか、2013 年度に承認する奨学生 (2013 年 9 月頃選考・承認予定) を支援する。

3. 海外諸活動

インドネシア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Frits Lexi Meinker Mojjai	男	24	学生	GKST	SAM Ratulangi University	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Mardianus Tado'u	男	26	薬局スタッフ	GKST	Samratulangi University, Manado	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Panca D. Dese	男	45	看護主任	GKST	STIK Central Jaya Palu	看護学修士	2011年9月 ~ 2014年9月
Mr. Iver Sudipi	女	26	看護師	GKST	PGI Cikini Hospital	外科マナーレジメン	2013年8月 ~ 2013年11月
Ms. Ferderika Amtiran	女	31	看護師	GKST	STIK Indonesia, Institute of Medical Science	看護学修士	2012年10月 ~ 2013年10月
Ms. Aprilin Poakalose	女	29	看護師	GKST	STIFA Pelita Mas, Palu	薬学	2011年6月 ~ 2015年8月
Ms. Kristin Natalia Puahadi	女	20	事務	GKST	STIK, Indonesia Jaya Palu	栄養学	2013年9月 ~ 2016年8月
Ms. Yuliana Najaya	女	26	看護師	GKST	STIKS Husada Mandiri, Poso	助産学	2011年6月 ~ 2014年9月
Mr. Jappy Roby Waladow	男	40	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Ariane Englin Repi	女	40	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Ervinna Amnyta Lontaan	女	38	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Menny Lolowang	女	32	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Katrina Nono	女	33	薬局スタッフ	ICAHS Lindimara Hospital	Politeknik Kesehatan Kupang	薬学	2010年6月 ~ 2013年5月
Ms. Christin Kusumawati	女	36	看護師	ICAHS William Booth Hospital	STIKES Hang Tuah, Surabaya	看護学	2010年9月 ~ 2013年4月
Ms. Derdalina Baud	女	22	看護師	ICHAS Bethesda Hospital	Tarumanagara, Jakarta	医学	2013年1月 ~ 2017年12月

ネパール

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Dr. Min Bahadur Thapa	男	41	医師	Anandaban Hospital	Kathmandu University	放射線診断	2010年9月 ~ 2013年8月
Mr. Jaganath Maharjan	男	41	理学療法士 助手	Anandaban Hospital	Doon Paramedical College and Hospital	理学療法	2010年7月 ~ 2015年1月
Ms. Jayanti Kumari Niroula	女	39	看護師	Anandaban Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2011年11月 ~ 2013年10月
Ms. Lila Kumari Khadka	女	25	看護師	Anandaban Hospital	Nagarik College of Health Science	看護学修士	2012年12月 ~ 2015年11月
Mr. Aaron Subba	男	22	無職	HDCS	Asian College of Medical Science & Technology P. LTD	検査技師	2012年12月 ~ 2015年11月
Dr. Kalebu Kumar Budha	男	29	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	National Academy of Medical Sciences	小児医学	2011年9月 ~ 2014年8月
Mr. Chandra Giri	男	42	薬局スタッフ	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaipal Health Institution	薬学	2011年9月 ~ 2014年8月
Mr. Kapil Presad Jaishi	男	40	事務	HDCS Chaurjahari Hospital	National Open College	公衆衛生	2011年11月 ~ 2014年10月
Mr. Rudra Bir Budha	男	35	検査技師 助手	HDCS Chaurjahari Hospital	School of Health Science Baharatpur, Chitwan	検査技師	2013年7月 ~ 2016年6月
Mr. Tilak Bahadur Kumar	男	33	地域保健・ 公衆衛生	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaipal Health Academy, Nepalgunj Bank Nepal	公衆衛生	2010年7月 ~ 2013年10月
Ms. Vivechana Shakya	女	35	教師	Lalitpur Nursing Campus	Faran College of Nursing, Bangalore, India	小児看護修士	2012年7月 ~ 2014年6月
Ms. Ester Parajuli Kharel	女	36	看護助教	Tansen Nursing School	Sanjivini Nursing College	看護学	2013年1月 ~ 2015年12月
Ms. Asha Rawal	女	18	看護師	Tikapur Christiya Mandali Church	Far-West Technical College	看護師	2010年9月 ~ 2013年8月
Mr. Tilak Raj Khanal	男	43	検査技師	UMN Tansen Mission Hospital	Chitwan School of Medial Science	医用画像工学	2012年9月 ~ 2016年8月
Ms. Bimala Khatri	女	43	准助産師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護師	2010年9月 ~ 2013年9月

3. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Sita Gaire Bashyal	女	28	看護師	United Mission Hospital, Tansen	B & B Medical Institute	看護学修士	2013年1月 ~ 2015年12月

バングラデシュ

Mr. Hembrom Isahak	男	20	無職	St. Vincent Hospital	Bangladesh Health Professions Institute (BHPI) CRP	理学療法士	2012年1月 ~ 2015年1月
Mr. Marna Bijoy	男	46	地域保健・公衆衛生	Christian Hospital Chandraghona	Atish Dipankar University	公衆衛生修士	2012年1月 ~ 2013年7月
Ms. Barua Priyanka	女	19	無職	Mahamuni Bidhaba	Christian Hospital Chandraghona	看護師	2012年1月 ~ 2015年7月
Ms. Tripura Maria	女	23	修道女	PIME Sisters	Green Life Medical College	看護師	2011年2月 ~ 2014年2月

インド

Mr. David Livingstone J.	男	20	無職	Christian Fellowship Hospital	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ~ 2015年2月
Ms. Sathiya Priya Muniandi	女	20	無職	Christian Fellowship Hospital	Sarah Nursing College	看護学	2009年9月 ~ 2013年9月
Mr. Joshua Paul	男	20	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College	検査技師	2010年7月 ~ 2014年7月
Ms. Karthika N.	女	19	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College	医学	2011年7月 ~ 2016年1月

ウガンダ

Mr. Arinaitwe Edson	男	29	検査技師助手	UPMB Ruharo Mission Hospital	Mbarara Medical Laboratory Training School	検査技師	2011年6月 ~ 2013年6月
Mr. Bukenya Stephen Ojwang	男	25	学生	UPMB Kitgum Diocese	Gulu University	医学士	2012年9月 ~ 2014年9月
Mr. Gideon Bwambale	男	33	看護助手	OPMB Rwesande Health Center IV	Kagando School of Nursing and Midwifery	看護師	2010年5月 ~ 2013年5月
Mr. Kawooya Patrick	男	30	検査技師	Reach Out	Mbarara University of Science and Technology	検査学修士	2011年8月 ~ 2013年8月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Labu Albert	男	27	准看護師	UPMB Akisyon A Yesu	International Health Sciences University	臨床医学、公衆衛生	2012年8月 ~ 2015年8月
Mr. Obaku Jackson	男	27	その他	UPMB Kei Health Centre, Here is life	Kampala International University	医学士	2012年9月 ~ 2018年6月
Mr. Syaipuma Mores	男	26	看護助手	UPMB Kinyamaseke Health Centre III	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2011年5月 ~ 2013年11月
Ms. Atuheire Catherine Allen	女	36	准助産師	UPMB Bwindi Community Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産師	2012年5月 ~ 2013年11月
Mr. Mabira Kenneth	男	38	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Paramedics	麻酔学	2012年5月 ~ 2014年11月
Ms. Bazira Nakato Rebecca	女	36	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護師	2013年5月 ~ 2016年5月
Mr. Okurut Fred	男	29	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護師	2012年5月 ~ 2013年11月
Ms. Nanyanzi Eunice Rebecca	女	32	助産師	UPMB Mengo Hospital	Mulago Paramedical School	麻酔学	2012年8月 ~ 2014年8月
Ms. Nampewo Lydia	女	33	准助産師	UPMB Mengo School of Nursing	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産師	2013年5月 ~ 2014年11月
Ms. Nansamba Valentine	女	30	准助産師	UPMB Mengo School of Nursing	Mengo School of Nursing and Midwifery	看護師	2012年5月 ~ 2013年11月
Ms. Nantongo Resty	女	31	看護師	UPMB Mengo School of Nursing	International Health Sciences University	看護学	2012年8月 ~ 2015年8月

タンザニア

Ms. Bertha John Makoye	女	23	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年9月 ~ 2013年9月
Mr. Paschal Peter Mashimi	男	24	検査技師助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2011年8月 ~ 2014年8月
Ms. Rozalia Constantino Buholo	女	23	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2011年8月 ~ 2014年8月
Mr. Francis Fortune Tegete	男	26	学生	AOT Ipuli Health Centre	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2010年9月 ~ 2013年9月

3. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Theresia Joseph Migezo	女	40	看護助手	AOT Ipuli Health Centre	Nkinga School of Nursing	看護師	2011年8月 ~ 2014年8月
Mr. Magesi Vincent Maswi	男	28	医師補	AOT Ipuli Health Centre	International Medical and Technological University	医学	2012年8月 ~ 2017年8月
Ms. Agnes Michael Sylvester	女	20	看護助手	AOT Kahiua Health Centre	Sumve Nurses and Midwives Training School	看護師・助産師	2011年9月 ~ 2013年9月
Ms. Gaudencia Fredrick	女	30	検査技師助手	AOT Kahiua Health Centre	Catholic University of Health and Allied Science	検査技師	2011年10月 ~ 2014年10月
Ms. Esili Josaphat	女	24	看護助手	AOT Kahiua Health Centre	Kolandoto College of Health Science	看護師	2012年9月 ~ 2014年9月
Ms. Hadija Yassin Mrisho	女	22	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2011年8月 ~ 2014年8月
Ms. Devotha Tiho Mayombya	女	23	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年9月 ~ 2013年9月
Ms. Sophia Charles Malale	女	30	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kabanga School of Nursing	看護師・助産師	2011年9月 ~ 2014年9月
Ms. Maria Simon Mnimbo	女	25	看護助手	AOT Ndala Hospital	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年8月 ~ 2014年8月
Ms. Glory Amistarick Malya	女	19	看護助手	AOT Sikonge Dispensary	Kolandoto College of Health Science	検査技師	2012年9月 ~ 2014年9月

[3-4] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとり）

● **BDP（Basic Development Partners）学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）**

今年度はバングラデシュの学校保健教育プロジェクトの4年目にあたる。今年度の計画は以下のとおりである。

- ・ 1～3年生の保健教育の授業の継続
- ・ 4～5年生の保健教育の授業の開始
- ・ 担当教員に向け講習（フォローアップトレーニング）の実施（2013年5月、9月）
- ・ 思春期女子への講習（2013年3月、10月）
- ・ 生徒たちの母親向け講習会（2013年9月）
- ・ 生徒の身体測定、健康診断（2013年8～9月）
- ・ ゴミゼロデイの開催（2013年5月）
- ・ ヘルスフェスティバルの開催（2013年9月）

また、6月にBDPとJOCSとで中間評価を行う。

● **新規**

新規の協働プロジェクトをカンボジアもしくはタンザニアにて開始する。2012年度にはカンボジアでの調査を行ったが、2013年度は引き続きカンボジアでの調査を行うと同時に、タンザニアにおいても実施可能性を調査する。

4. 国内諸活動

【4-1】 国内活動全般

今年度も昨年に引き続き、ワークショップの開催、地区 JOCS 活動のサポートなど国内活動の充実を図る。支援者、その他 JOCS の活動を知らない方々へ向けて活動紹介に努める。

(1) 子どもを対象にした活動

青山学院初等部のファミリーフェアへの出店とワークショップ、横浜共立学園でのワークショップを今年も開催する。またワークショップを実施できる学校を新たに開拓する。

(2) 地区 JOCS 活動支援：仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・岡山・四国高知

各地区において、地域のイベント出店やチャリティコンサートなどの催し物を開催する予定である。

(3) 講師派遣プログラム

今年はワーカー報告会の予定はないが、東京、大阪近郊以外の道府県からの講師派遣の要望にも応えられるよう、体制を整えていく。

【4-2】 ワーカー育成活動全般

今年度も、JOCS のワーカーの発掘・育成と、海外保健医療協力の芽を広く育てるため、海外保健医療勉強会と海外保健医療協力セミナー、スタディツアーを開催する。また新しい試みとして「JOCS 読書カフェ」という読書会を定期的に関く。

具体的には以下のとおりである。

- ・ 海外保健医療勉強会：「人権」をテーマとする
- ・ 海外保健医療協力セミナー：2013 年度の年末年始休暇中の 1 泊 2 日、横浜寿地区で開催する
- ・ スタディツアー：7～8 月に南インドへのツアーを開催

【4-3】 東日本大震災被災者支援

今年度は以下の活動を行う。

(1) 宮城県仙台市

①被災者支援センタースタッフ雇用サポート（協力先：東北教区センター・エマオ）

被災者支援を行っている日本基督教団東北教区被災者支援センターを支えるための継続事業として、そのスタッフの人件費をサポートする。

被災者支援センターでは仙台市若林区や石巻市での被災者支援活動を行う。

(2) 岩手県釜石市

①看護師チームの派遣（受け入れ先：カリタス釜石）

看護師チームを派遣し、仮設住宅や孤立集落の在宅被災者のための訪問ケアなどの支援活動や、カリタス釜石の「心のケア」への協力を継続して行う。今年度は約 1 週間ずつ 4 回（5 月、9 月、11 月、3 月）行う。

②カウンセラー派遣

毎月カウンセラーを派遣し、教会および仮設住宅での傾聴活動や、支援者向け講座の開催、支援者のケアなどを行う。この活動は、カリタス釜石（カトリック釜石教会）の「心のケア」チームに協力して行うものである。

(3) 福島県

①いわき市仮設住宅健康相談

いわき市社会福祉協議会の要請により、いわき市仮設住宅集会所（いわき市中央台高久第一集会所）に月 2 回医師及び保健師を派遣し、健康相談を実施する。

②福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」と連携して活動する。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援する。

- ・個人被ばく線量測定サービス（クイックセルバッチ）着用支援

福島市の「青葉学園」及び「福島愛育園」で、入所している子ども及び職員の着用を支援する。

- ・超音波診断装置による甲状腺検査支援

甲状腺の異変の早期発見・早期治療に役立てることを目的に、児童養護施設に医療従事者を派遣し、公的な検査の通知が来ない子どもを中心に検査を実施する。県内 6 の児童養護施設で実施する予定である。

【4-4】 広報全般

今年度も広報活動の充実を図り、会員・寄付者の増強に努める。具体的な活動は以下のとおり。

(1) 「みんなで生きる」の企画・編集

- ・ 隔月の偶数月の発行とし、16 ページまたは 20 ページで、情報量にあわせてページの増減をしつつ編集を行う。ただし、6・7 月号は、別途作成される年次報告書と合わせて送付するため、ページを減らした特別号とする。
- ・ ワーカーの活動や現地の人々の声をわかりやすく具体的に伝えるように努める。
- ・ 新しい会員のために、あらためて JOCS の目的や歴史なども時々紹介したい。
- ・ 読者のアンケートや質問を大切にして読者との交流を図り、誌面づくりに活かしたい。
- ・ 若年層も関心が持てる記事や紙面づくりを工夫したい。

4. 国内諸活動

- ・ 子ども号の内容について、対象年齢を絞るかどうかも含めて検討する。
- ・ ホームページとの連携を強め、それぞれの特色を活かしたい。
- ・ 今後発行回数を減らすことに関して、2013年度中に結論を出すように努める。

(2) ホームページ

切手寄付団体の名称掲載と、会員ページによる会報の公開（会員限定）を継続して行う。また、広報の専門家の支援を得て、ホームページの改訂を進めていく予定である。

(3) 「JOCS フォーラム」の発行

今年度は、宮川眞一ワーカー、倉辻忠俊ワーカー、乾眞理子短期ワーカー、石本馨短期ワーカーの各報告書、および海外保健医療勉強会の講演原稿も掲載する。6月1日のJOCS社員総会にて配布する。

(4) ボランティアテックの活動

今年度、できればワーカーの活動報告のためにボランティアフォトグラファを派遣したい。また、東日本大震災被災者支援活動の記録のために、現地にフォトグラファを派遣することを考えている。

年に2回ミーティングを開催し、広報資料の充実に努める。

【4-5】 募金

2013年度の募金目標額は1億530万円とする。

各地でのイベントなどを通して活動をアピールしていく。クレジットカードによる募金も、さらに広く知られるよう、ホームページや会報を通してお知らせをする。

夏期募金は、年次報告書、「みんなで生きる」6・7月号の簡易版に募金趣意書（払込用紙込み）を封入し、冬期募金では、詳細を記載した募金趣意書と払込用紙を封書にて発送する。いずれも送付先は会員やご寄付で協力をいただいている個人、教会や学校、保育園、幼稚園、友の会等とする。冬期は、2012年度に引き続いて切手協力者にも募金のお願いを発送する予定。

また、キリスト教雑誌の広告を用いて活動を告知し、冬には募金協力をお願いする。

【4-6】 使用済み切手運動

2013年度も、前年に引き続き切手協力団体の団体名を、ホームページ上で1ヵ月分を毎月まとめて公表する。また従来から収集している書き損じはがきを直接現金化する。

予定 2013年4月27日（土）～4月29日（月・祝） 浅草スタンプショウ

5月25日～26日 広島スタンプショウ

9月（日程未定） 高知スタンプショウ

切手タスク

切手まつりに関しては、開催希望を募集中である。

また、2014年に行われる切手運動50周年記念イベントに向けて、準備する。

[4-7] JOCS 関西バザー

今年度は5月11日(土)に大阪聖パウロ教会にて第19回JOCS関西バザーを開催する。今回も「切手を持ってバザーに行こう」をキャッチフレーズに、物品販売、食べ物コーナーなどのイベントを計画している。

5. 運営会議

[5-1] 社員総会

第52回定時社員総会を、早稲田奉仕園リバティホールにて、2013年6月1日(土)に開催する。

[5-2] 理事会

今年度は年9回開催する予定。今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

小島莊明 (会長)	畑野研太郎 (常務理事)	植松功 (理事)
大江浩 (理事・総主事)	大友宣 (理事)	高梨愛子 (理事)
仁科晴弘 (理事)	平本実 (理事)	渡部芳彦 (理事)
小澤英輔 (監事)	辻本嘉助 (監事)	

新たな理事候補者は次のとおり。2013年6月1日(土)定時社員総会にて選任予定である。

森田隆 (海外担当主事)

[5-3] 運営協議会

中長期的な運営方針や事業のあり方を検討するため、運営協議会を2回開催する予定。検討内容、構成人員は定例理事会で検討する。

[5-4] 委員会

<関西地区活動委員会>

委員長：船戸正久

委員：宇山進、大谷透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田恒、高谷泰市、

5. 運営会議

畑野めぐみ、榛木恵子 和田浩、

陪席者：辻本嘉助（監事）、中村満子（神戸 JOCS）

- ① 委員会は2ヵ月に一度の頻度で、JOCS 関西事務局にて開催予定。
- ② 関西 JOCS2013 の集いに関しては、今後委員会で話し合っていく。現在は未定。
- ③ 上記の集いの他、2014 年に開催予定の使用済み切手運動 50 周年記念イベントについても並行して協議・準備していく。
- ④ バザーは、5月11日（土）大阪聖パウロ教会にて開催予定。

<研修生・奨学金委員会>

委員長：柳澤理子

委員：小宅泰郎、諏訪恵子、細谷たき子、宮崎雅、山崎眞由美

① 奨学金支給対象者の決定

今年度から選考を年1回（夏のみ）として行う。

JOCS 海外研修生奨学金規定と JOCS の5ヵ年計画に則り、今後も地域の保健医療向上のために草の根レベルで尽力すると思われる奨学生を優先し、現地のニーズに適切に応えられるような選考を行う。

② フォローアップ

今年度はウガンダを訪問し、奨学金支給者のインタビューや奨学生の所属団体との話し合いを行う。それにより奨学金の適正な使用とその効果について評価する。同時に、所属団体の方向性やその地域の特徴などを見ることにより、今後の JOCS との関わりにつなげる。

③ 奨学金活動の広報

機会をとらえて、会報、募金趣意書、ホームページなどで、より積極的に奨学金活動を支援者にアピールする。また、広報ツールになりえるような奨学生のレポート活用などの可能性を探る。

<広報委員会>

委員長：宇山進

委員：大村竜夫、柏木牧子、須賀真弓、那須野幸子、平本実

今年度も広報活動を充実させ、会員・寄付者の増強に努める。活動予定は以下のとおり。

詳細は[4-4] **広報全般**（15～16 ページ）を参照。

- ① 「みんなで生きる」の企画・編集
- ② ホームページの充実
- ③ 「JOCS フォーラム」の発行
- ④ ボランティアテックによる活動

<国内活動委員会>

委員長：北澤肯

委員：新井ななえ、金井和夫、羽山直人、原口裕紀子、真鍋まり

3回ないし4回の委員会開催が予定されている。昨年度作った、グループごとに取り組む3つのトピックに沿ったアクションプランを一回目の委員会で精査して最終化し、理事会に提案する。その中で、委員会自体が実施できそうなものはピックアップし、実行する。また理事会に提案して認められた活動に関しては、継続的にモニタリング・評価をおこない、委員会の提案内容の整合性の評価や、責任主体である理事会（および実施主体の事務局）のパフォーマンス向上に役立てる。

<財務委員会>

委員長：畑野研太郎

委員：安藤淑子、佐藤光、中畠裕一

JOCS の財政状況は依然厳しい状況が続いている。しかし本年度は、赤字額は減少し、会費・募金収入をがんばって増加させることを今後数年継続することができれば、収支均衡も不可能ではない状況となっている。ただこれは海外派遣ワーカーが減少した結果、海外派遣費が減少したことを主な要因としてのことである。しかし、事業の縮小を要因として収支のバランスを保っていくことは、私たちに与えられている使命からしても好ましい状況とは言えない。現在は長期ワーカー3人程度と数名の短期ワーカー派遣、ほぼ1,000万円の奨学金、一つの協働プロジェクト、東北災害支援などを実施しながら、近い将来に収支のバランスを取ることを目標としている。

しかし、これからのJOCSの活動のバランスを考えると、協働プロジェクトをさらに成長させることが必要で、予算の面からも本年度は協働プロジェクトの新規開拓に力を入れていく計画である。そのためにも、活動を安定的に支える会員獲得や寄付金拡大のための工夫や働きかけが引き続き非常に必要とされている。事業を拡大する基盤である収入を増やして行けるよう、今年も財務の立場から理事会に答申を行っていく。

<ワーカー育成委員会>

委員長：植松功

委員：秋田公子、大友宣、黒川瞳、土井直彦、堀越春香

より多くの方に海外保健医療協力に関心をもっていただき、またJOCSとのつながりを続けていただけるように、現行のプログラムを続けつつ、改善や新しい試みについて委員会で検討していきたい。

各プログラムについては、[4-2] ワーカー育成活動全般（14ページ）を参照。

<ワーカー派遣委員会>

委員長：榛木恵子

委員：長尾真理、宮崎雅

ワーカー志願書や、ワーカー派遣要請書の提出があった場合、ワーカー志願者の面接や、ワーカー派遣要請に関する検討を行う。

5. 運営会議

また、上記の働きを円滑に行うために、理事会、事務局と協力して、委員会の責務について協議し明確にする予定である。

ワーカー志望者の状況についても、随時報告を受けて把握する。

[5-5] 海外保健医療協力者会議のフォローアップ

(1) 新「今後5年間の方向性」(2013年～2017年)

2012年12月末開催の海外保健医療協力会議(通称:ネクステ会議)の協議を受け、その協議内容を反映させながら新しい「今後5年間の方向性」を実施するための具体的なアクションプランを策定する。

(2) 基本方針及び実施要綱の改定

2012年12月末開催の海外保健医療協力会議の協議を受け、基本方針及び実施要綱の改定準備を進める。

[5-6] 評価

(1) 活動終了前レビュー

任期終了半年前にかかるワーカーはいないため、ワーカー活動終了前レビューを行う予定はない。

(2) ワーカー自記式アンケート

ワーカー派遣後1年ごとに行う自記式アンケートを次のワーカーに対して行う。

- ・岩本直美ワーカー 1年目 2013年5月
- ・青木盛ワーカー 2年目 2013年9月
- ・山内章子ワーカー 2年目 2014年1月

6. 事務局

＜総主事 大江 浩＞

2013 年度、事務局の主な動きは下記のとおりである。

第 1 に、ワーカー派遣、奨学金支援、プロジェクト・りとる（協働プロジェクト）の 3 つの事業をしっかりと支えたい。特に新規の協働プロジェクトの展開に向けて、調査とプランニングに力を注ぎたい。また諸活動の充実のため、大学と連携し、インターンの受け入れを行っていききたい。

第 2 に、第 5 回海外保健医療協力者会議（ネクステ会議）の覚書に示された問題提起と課題を受けて、理事会の指示に従って、各項目に対して事務局として対応していききたい。

第 3 に、新「今後 5 年間の方向性」のステートメントとアクションプランの策定、また公益社団法人の定款に基づく、基本方針と実施要綱（P&P）の改定案を作成する。

第 4 に、会員増強・寄付拡大に際し、広報やファンドレージングが大きな課題となっている。広報については、広報改革タスクが中心となって計画実施していくが、特に、専門家の協力を得て、ホームページ並びに IT 広報の充実を図りたい。

第 5 に、2014 年度の「使用済み切手運動 50 周年」に向けて、切手タスクを中心に企画準備をしていききたい。

第 6 に、「公益社団法人」として 3 年目を迎える。公益法人として、事業・組織・財政、各領域での適正な運営に努めたい。

第 7 に、東日本大震災の被災者支援については、引き続き、事務局が各所と連絡調整に当たりながら、継続したい。

最後に、東京事務局は山下諭子の退職を受けて、ボンサヴァンのぞみを採用し、スタートする。事務局スタッフの人材育成のために、様々な能力開発と啓発機会を積極的に活用したい。皆様のお支えに深く感謝しつつ、ご支援ご指導を賜りたい。

＜スタッフ＞

総主事	大江浩
海外担当主事	森田隆
東京事務局	名取智子、大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、ボンサヴァンのぞみ、森田真実子、山中信
関西事務局	渋江理香、河野智恵